

横田地区 国営農地開発事業の概要（仁多郡奥出雲町）

本地区は、奥出雲町（旧横田町）内の山林原野 640ha を開発して 371ha の農地を造成し、各団地への畑地かんがい施設を整備しました。造成された農地では飼料作物、そば、野菜、果樹（ぶどう）等が作付けされています。また、地元企業による農業参入事例もあります。

工 期 昭和 49 年度～平成 8 年度 受益農家戸数 584 戸

区 分		事業量	区 分		事業量
農地造成工	—	370.8ha	地区内用水路	—	67.5km
坂根ダム	—	1 式	道路工	幹線支線道路	38.8km
揚水機場	—	3 力所	防災施設工	地区外排水路	11 力所
用水路工	幹線支線水路	78.4km			

位 置 図



Ⅱ 横田地区の概要

1 地区の概要

本地区は島根県の東南東に位置する奥出雲町にあります。東は鳥取県、南は広島県に接し、中国山脈に抱かれた標高 300～800m、年平均気温 12.1℃、年平均降水量 1,742mm、降雪深 420cm の山間準高冷地帯で、町の大半が林野であり、耕地はわずか約 5.5%です。

事業完了当時、旧横田町の農業従事者は就業人口の 37%を占めており、地域の自然的、社会的条件から飛躍的に伸びる他産業が見出せず、農業は引き続き基幹産業に位置付けられていました。

かつては、水稻を基幹として和牛、木炭の生産が主体でしたが、生産基盤の整備が進むにつれて、しいたけ、酪農、果樹、葉たばこ等が定着し、特に瀬戸内方面への食料生産基地として位置づけられていました。このため、国営農地開発事業は、山林原野を農地として開発し、規模拡大による農業の安定経営とこれを起爆剤とした町勢の発展を図ろうとするものでした。

しかしながら、農業の担い手不足が加速する中、造成された農地が十分に活用されていない圃場が見られる状況となりました。そこで、町では全国に先がけて農地制度の特例を適用する「奥出雲来遠（らいおん）の里づくり特区」の認定を平成 16 年に受け、地元企業の農業参入を促進する新しい開発地営農の確立を目指しました。

2 営農推進の状況

（１）経過

昭和 51 年度に着工した農地造成は平成 8 年度に完了しました。

昭和 52 年度から露地野菜、ぶどう、飼料作物が主な作物として栽培され、平成 7 年度には農業用水が坂根ダムから全団地に供給可能になり、施設野菜や花きも栽培されるようになりました。

平成元年度に設立された社団法人横田町農業公社（現在：（社）奥出雲町農業公社）では、土づくりのため土壌改良（熟畑化）を行ってきました。その後も「横田町土づくり推進事業」（平成 4 年度：町単独事業）、「国営開発地営農定着促進事業」（平成 6～8 年度：県単独事業）、「造成農地就農条件整備事業」（平成 9～11 年度）を活用して堆肥等の投入による熟畑化対策が行われてきました。

担い手育成では、平成 6 年度に社団法人横田町農業公社が中心となって取り組みられました。同公社では「農業者インターン制度」を創設し、町内外の就農希望者を対象に 2 年以内で栽培技術と経営管理を習得させる研修を行いました。平成 9 年から平成 11 年にかけて新規就農者技術習得施設（研修棟・宿泊棟・バイオ施設）を整備し、多くの研修生を受け入れてきました。

また、町は、開発営農の推進のため「国営農地開発事業完了地区営農ネットワーク事業（農村振興支援総合対策事業：国庫）」を導入して開発地の利用ビジョンを策定しました。そして平成 19 年度まで国や県の補助事業を活用し、農地の利用促進に向けた和牛簡易放牧の取り組みや在来品種「横田小そば」の生産拡大に重点を置いた取り組みを行いました。

一方、担い手不足や高齢化が加速する中、開発農地の活用が十分ではない圃場が散見されるようになったため、町では平成 16 年から地元企業の農業参入を促進してきました。このほか、企業参入以外にも農業生産法人や水田農業を主体としていた集落営農法人の開発地への参入も進んでいます。

これは、町が平成 20 年度から平成 21 年度に「段階的基盤整備等実証調査事業：国庫」を活用して参入志向企業など実需者側の意向を把握し、それを踏まえて諸課題を分析・検討して段階的な整備計画を策定したことにあります。

この計画をもとに、町では「農山漁村活性化支援プロジェクト交付金：国庫」や「耕作放棄地再生利用交付金：国庫」を平成 20 年度から平成 27 年度にかけて導入し、除礫、深耕、排水改良、堆肥施用等の農地の再整備を進めました。

（２）作物の作付状況等

「国営農地開発地における作物作付状況調査結果」は次のとおりです。

- ① 令和 6 年度の栽培面積 10ha 以上の品目は、飼料作物約 72ha、そば約 32ha となっています。
- ② 平成 20 年度から、企業参入によるワイン用ぶどうの栽培が始まりました。
- ③ 平成 24 年度には大型施設でのトマト栽培が始まりました。
- ④ 地元工務店がエゴマを一括集荷し加工・販売まで行い、農業に参入した企業をはじめ他の入植者の作付け拡大、環境保全型農業の推進や未作付状態だった圃場の耕作再開につながるなど、開発地の営農に大きく貢献してきました。しかし、平成 28 年頃から連作障害と思われる状況（菌核病・鱗翅目害虫）が多発し、栽培面積も減少しています。
- ⑤ 遊休農地や作付休閑地の解消に向けた町の積極的な取り組みの結果、要活用農地は一時減少していましたが、近年は営農者の高齢化等の影響により増加傾向にあり、令和 6 年度には約 113ha となっています。畜産飼料価格が高騰しているため、町は飼料生産機械の整備を図り、町農業公社を中心とした地域の畜産農家への供給体制を強化しようとしています。

横田地区開発地の利用状況

(単位:ha)

	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R06-R05
飼料作物	86.9	88.5	92.9	98.7	94.4	78.3	81.9	79.3	71.7	-7.6
露地野菜	18.0	18.0	24.8	26.6	24.3	22.8	24.3	22.1	13.2	-8.9
キャベツ	6.2	4.1	8.2	8.4	7.9	7.9	8.1	7.7	3.1	-4.6
さつまいも	1.0	1.3	1.3	1.1	1.2	1.1	1.6	1.0	0.8	-0.3
果樹	13.2	12.4	12.2	12.6	12.6	11.7	10.6	9.4	11.0	1.6
ぶどう	4.1	4.2	4.5	4.0	4.0	3.6	3.1	2.2	1.7	-0.6
ブルーベリー	4.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.2	3.4	3.3	3.1	-0.3
永年性作物	4.9	3.7	3.7	3.6	2.8	1.8	1.8	0.9	0.1	-0.8
タラ	2.6	2.3	2.2	1.6	1.4	0.5	0.5	0.5	0.0	-0.5
施設野菜	9.1	9.3	10.2	9.6	9.7	9.0	9.5	9.0	8.6	-0.4
トマト	5.0	5.0	5.2	5.2	5.2	5.3	5.4	4.8	4.8	0.0
そば	65.1	55.9	53.6	56.9	54.1	47.0	47.3	48.2	32.3	-15.9
エゴマ	17.7	8.9	6.0	5.4	4.5	4.8	3.1	3.6	3.3	-0.2
その他作物	8.9	11.3	9.1	6.7	7.6	4.8	3.1	5.8	6.0	0.2
その他				1.6	1.7	1.3	3.2	1.2	0.7	-0.4
作付面積計	223.8	208.1	212.3	221.6	211.6	181.6	184.8	179.5	147.0	-32.5
作付準備	20.9	25.7	16.2	7.7	9.2	14.0	10.4	9.2	10.8	1.6
作付休閑	16.2	25.6	32.5	31.9	37.4	50.4	48.9	40.4	37.6	-2.8
遊休農地	10.1	11.7	9.9	9.7	12.7	24.9	26.9	41.8	75.6	33.8
計(要活用農地)	26.3	37.2	42.4	41.6	50.1	75.3	75.8	82.1	113.1	31.0
開発地面積	270.9	270.9	270.9	270.9	270.9	270.9	270.9	270.9	270.9	0.0

※「空欄」: 詳細データが無く、不明または作付無し

【横田地区・作付状況（写真 左：そば、右：醸造用ぶどう）】

